令和 7 年度 学校評価自己診断 報告資料

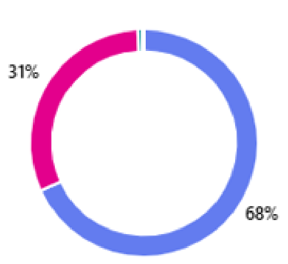
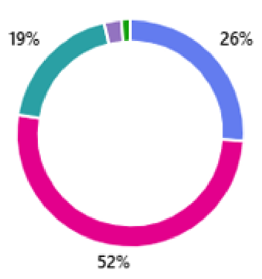
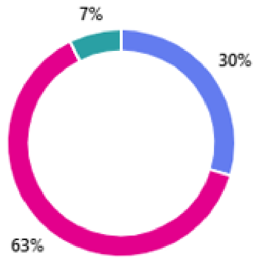
1　全体総括

全体として、生徒の学校生活に対する満足度は高く、特に「協働学習」や「友人関係」において非常に良好な結果が出ています。一方で、「学習習慣」「基本的生活習慣（身だしなみ・時間など）」「SNS 利用」に関しては、生徒の自己評価と、教師・保護者の評価に大きな「認識のズレ（ギャップ）」が見られ、ここが今年度の最大の課題と言えます。

2. 成果が出ている項目（強み）

生徒・保護者・教師ともに肯定的回答（「とてもそう思う」「まあまあそう思う」の合計）が高く、学校の教育活動が順調に推移している分野です。

① 授業における「協働」と「対話」（項目 3）

	生徒	保護者	教員
3	授業では他の生徒との「協働」や「対話」をすることがよくある。 	ご家庭では学習に必要な教材や環境は十分に整っている。 	ご自身は、授業において生徒間の「協働」や「対話」を取り入れた実践ができる。 

データ: 生徒の肯定率が 99%（とても 68%＋まあまあ 31%）と極めて高い数値です。

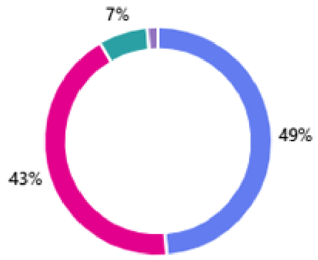
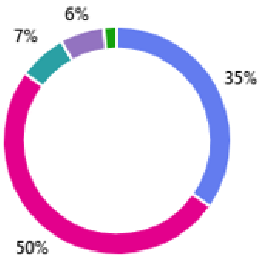
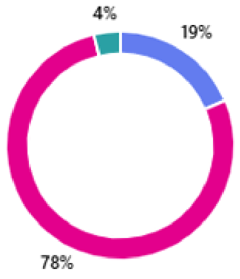
＜要因＞

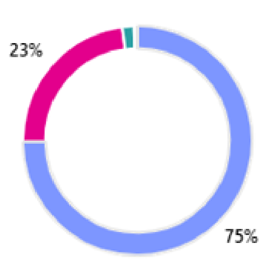
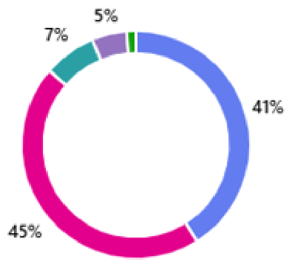
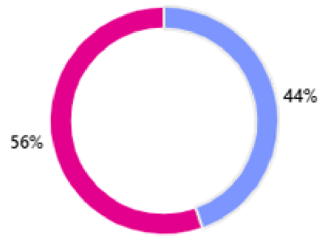
・各教科において、ペアワークやグループワークを取り入れた「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）」の視点による授業改善が進んでいるため。

・「間違っても大丈夫」という安心感のある教室の雰囲気が醸成されているため。

② 良好な友人関係と学校生活の充実（項目 6・7）

データ:「友達と仲良く生活している」の生徒肯定率が 98%、「学校生活は楽しい」が 92%。

	生徒	保護者	教員
6	学校生活は楽しい。 	お子様は、毎日楽しく学校に通っている。 	学年の生徒は、楽しく生活ができている。 

7	友達と仲良く生活している。 	お子様には一緒に遊んだり相談したりできる友達がいますか。 	ご自身は、生徒理解と生徒の人間関係づくりとに努めている。 

＜要因＞

・学校行事（体育祭・文化祭など）を通じて、クラスの絆を深める取り組みが功を奏している。

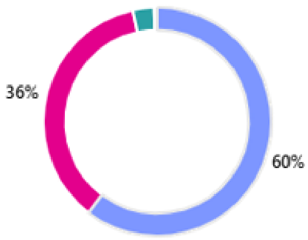
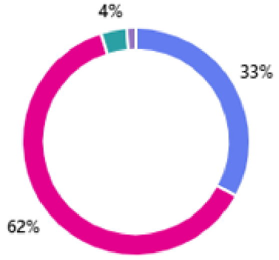
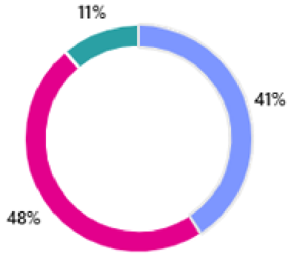
・キャリア教育において、１年生は企業訪問、職業調べポスターセッション、２年生は起業体験、３年生では進路指導を通して主体的に取り組めたため。

・校外学習では当日を迎えるまでの事前学習が充実したため。

・いじめアンケートの定期実施や教育相談週間など、生徒の小さな変化を見逃さない生徒指導体制が機能している。

③ 情報発信の充実（項目 17）

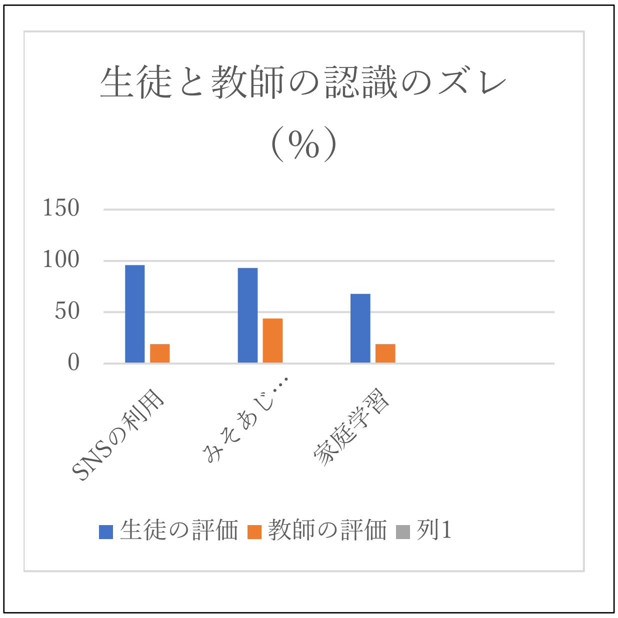
データ：保護者の肯定率が 95%、教師も 89%と高評価。

	生徒	保護者	教員
17	学校は、各種便りやホームページ、sigfy などを通して様々な情報を伝えている。 	学校は、各種便りやホームページ、sigfy などを通して様々な情報を伝えている。 	ご自身は、Sigfy を適切に扱うことができている。(誤送信しないような確認を含む) 

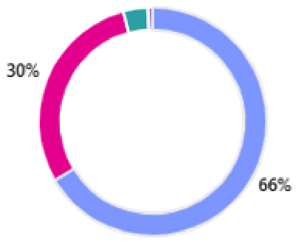
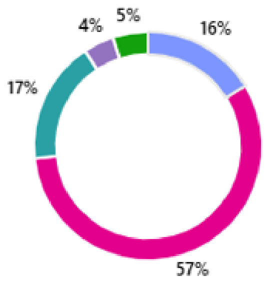
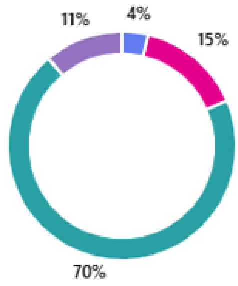
＜要因＞

学校ホームページの頻繁な更新（週に１回程度の HP の更新を目標）や、Sigfy（連絡アプリ）等によるタイムリーな情報提供が定着し、保護者の信頼を得ている。

3. 改善が必要な項目（課題と対策）肯定的回答が低い、または「生徒」と「教師・保護者」の間で認識に大きな乖離（ギャップ）がある項目です。

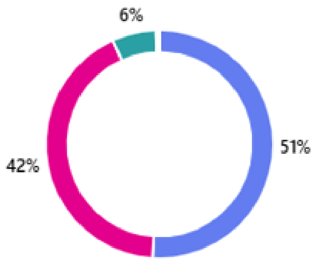
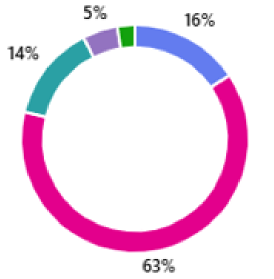
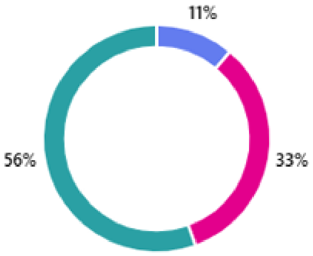


①SNS の適切な利用（項目 14）

	生徒	保護者	教員
14	自分は、SNS について適切な使用ができる。 	お子様は、SNS について適切な使用ができている。 	生徒は、SNS について適切な使用ができる。 

＜課題の分析＞
・生徒の 96%が「適切に使用できる」と自信を持っていますが、教師の肯定率は 19%と、全項目の中で最大のギャップ（77 ポイント差）があります。
生徒はトラブルの種に気づいておらず、大人は水面下のトラブルや依存傾向を危惧している状態です。
＜今後の改善策（案）＞
・道徳の授業を通じて SNS のトラブルを他人事ではなく自分事として捉えられるように心を育てていく。
・情報モラル教室の実施: 警察や専門家を招き、実際のトラブル事例（肖像権、誹謗中傷、デジタルタトゥー）を学ぶ機会を設ける。
・「スマホ・SNS ルールの見直し」: 生徒会と PTA が協力し、現状に即した「我が家のスマホルール」や「学校でのメディアコントロール宣言」を作成・発信する。

② 基本的生活習慣「みそあじ」の徹底（項目 13）

	生徒	保護者	教員
13	自分は、「みそあじ」（身だしなみ・掃除・挨拶・時間）を意識して取り組んでいる。  	お子様は、身だしなみ・掃除・挨拶・時間を意識して行動できる。  	生徒は、「みそあじ」（身だしなみ・掃除・挨拶・時間）を意識して取り組んでいる。 

＜課題の分析＞

「みそあじ（身だしなみ・掃除・挨拶・時間)」について、生徒は 93%が「できている」と回答していますが、教師は 44%にとどまっています。

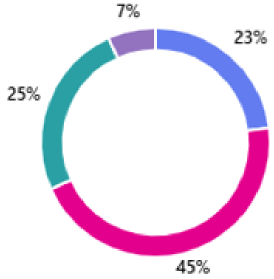
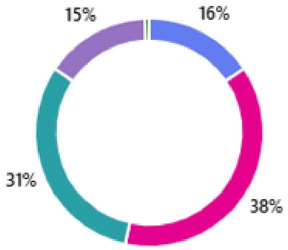
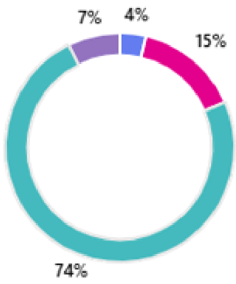
生徒は「やっているつもり」だが、教師が求めるレベル（時場に応じた行動など）には達していないという「認識のズレ」が顕著です。

＜今後の改善策（案）＞

・生徒会主導のキャンペーン: 教師が注意するだけでなく、生徒会や委員会が主体となって「挨拶運動」、「2 分前着席キャンペーン」などの「生活向上プロジェクト」を行い、生徒相互の意識を高める。

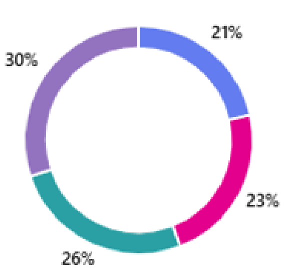
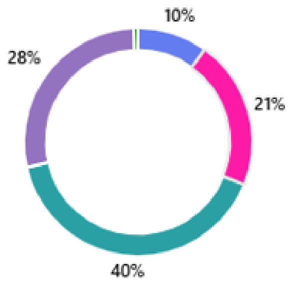
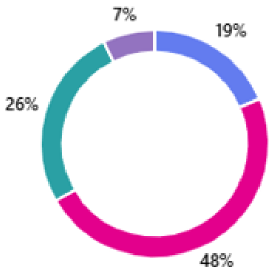
・評価基準の可視化: 「良い掃除とはどのような状態か」などを写真や動画で示し、具体的な到達目標を共有する。

③ 家庭学習と読書習慣の定着（項目 4・5）

	生徒	保護者	教員
4	家庭で学習する習慣（宿題、予習、復習など）が身についている。  	お子様は、家庭で学習する習慣（宿題、予習、復習など）が身についている。  	生徒は、家庭で学習する習慣（宿題、予習、復習など）が身についている。 

＜課題の分析＞
・「家庭学習の習慣」について、生徒は 68%が肯定的ですが、教師はわずか 19% しか肯定していません。提出物の質や予復習の実態に不満があると考えられます。
・「読書」に関しては、生徒（44%）、保護者（31%）ともに低調です。
＜今後の改善策（案）＞
・学習計画表の活用: 定期テスト前に限らず、日々の学習計画（PDCA）を振り返る時間を帰りの会などで設ける。

4. 昨年度課題であった読書について

	生徒	保護者	教員
5	学校以外で読書をしている。（デジタルを含む）  	お子様は読書の習慣が身についている。（デジタルを含む）  	ご自身は、生徒に読書の大切さを伝えている。 

＜課題の分析＞
・数値的には低い状況ではあるが、読書活動推進に取り組んでいる。
＜今後の改善策（案）＞
・朝読書の充実: 10 分間の読書時間を継続し、教師も一緒に本を読むことで読書環境を整える。
・ブックトークの流れから校内でもビブリオバトルなどを活性化させていく。今年度からＣＳの協力を得て 3 回のブックトークの実施となった。生徒は真剣に話を聞き、実施後は想定以上に肯定的な感想や意見が多かったので継続していきたい。

5. まとめ
今回の評価結果から、学校内では楽しく充実した生活が送れている一方、「家庭での学習・読書習慣」や「SNS 利用を含む社会的なマナー」において、大人の目から見ると課題が残ることが明らかになりました。
学校では引き続き授業改善と環境づくりに努めますが、保護者にも協力していただき、以下の点についてご協力をお願いいたします。
・家庭での「オフライン時間」の確保: スマホを置いて、家族で話す時間や読書・学習に向かう環境作り。
・地域での挨拶・声掛け: 生徒の登下校時の見守りと、良い行動・気になる行動への温かい声掛け。